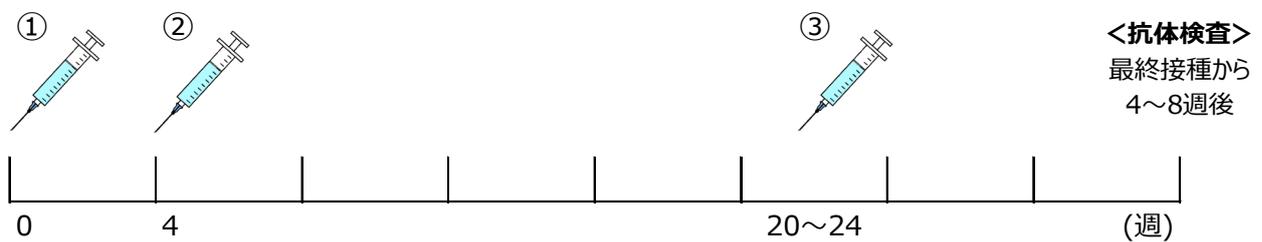


B型肝炎ワクチンについて

診療や手術、検査や研究(血液や体液に触れる侵襲的処置、採血、検体取り扱い)など、血液曝露の恐れがある臨床業務に従事する医療関係者は、B型肝炎ワクチン接種をして免疫を獲得しておく必要があります。

B型肝炎ワクチンは不活化ワクチンで、基礎接種は3回(1シリーズ)です。3回目の接種終了後から4~8週後にHBs抗体検査を行い、10mIU/mL以上であれば免疫獲得と判定し、追加接種は不要です。



- ① 1回目接種
- ② 4週間後に2回目接種
- ③ 1回目接種から数えて20~24週後に3回目接種

＜1シリーズの接種がスケジュール通りできなかった場合は、以下の対応を参考にしてください。＞

- 2回目が1回目から4週間を超えた場合
気付いた時点で速やかに2回目を接種し、その後規定どおり3回目を接種します。
- 2回目が1回目から4週間未満の場合
規定どおりに3回目を接種します。接種間隔が極端に短い場合は再接種を検討します。
- 3回目が遅れた場合(1回目から24週以上経った場合)
気づいた時点ですぐに3回目を接種します。4~8週後に抗体価を確認してください。

(参考)

一般社団法人 日本ワクチン産業協会 予防接種に関するQ&A集 2022
日本環境感染学会 医療関係者のためのワクチンガイドライン



Q&A集



ガイドライン

ワクチン接種記録は大切に保管しましょう